

きらわれたたガール

西野勇仁 作

【登場人物】

- ナナミ …… 好かれたガール。
エリー …… 嫌われたガール。
コースケ …… 優しい彼は悪魔みたい。
パー子 …… 頭がパー子。
ピー子 …… お腹がピー子。
プー子 …… 職業プー子。
ペー子 …… 完璧のペー子。
ポー子 …… マイケルのにポー子。
高円寺 …… 学級委員長。
児玉 …… 窓際の似合っ少女。
コタマ …… エリマキトカゲ。自分は飛べると思っている。
小森さん(ペー子) …… エリマキトカゲ。ヤモリとイモリに対抗できる唯一のエリマキトカゲ。
小林(ポー子) …… エリマキトカゲ。小森の忠実なるしもべ。
小町(プー子) …… エリマキトカゲ。エリマキトカゲ一可愛い。
コンパ(パー子) …… エリマキトカゲ。みんなでわいわいするのが好き。
ココイチ(ピー子) …… エリマキトカゲ。カレー大好き。
コージエン(高円寺) …… エリマキトカゲ。何でも知っている。
ここから …… エリマキトカゲ？全てはここから！
KFC113 …… エリマキトカゲ。小町ちゃんファンクラブ。
保安官 …… 敵。何故かホアンカン。
馬 …… 二足歩行の保安官の馬。
無頼漢 …… 敵。謎の無頼漢。
面接官 …… 敵。無駄に面接官。
朝刊 …… 敵。やってみただけ朝刊。
夕刊 …… 敵。がんばったけど夕刊。

#00 ニニから

放課後の教室。

照らされる、ニニから。

ニニから

描かれたエリマキトカゲ、笑ってる。いつだって君は笑ってる。そこが素敵ね好かれたガール！ だから！そこに！クラスじゃ静かなあいつの夢混ぜ合わせ、つなぐぜ物語！ T.O.エリマキトカゲ。それじゃあテキスト、開いて下さい。

開幕。

ニニから

緞帳開いちゃったよ。

ニニから、去る。

そして物語が始まる。

小町

ココイチ

小森さん

小林

小森さん

小林

小森さん

小町

小林

小町

小森さん

小町

コンパ

ねえ、誰なんだろ、この子。

可愛い寝顔。

しっ！気を付けろ！敵の奇越したスパイかもしれんぞ！

ススス、スパイですか！？

そうだ、スパイだ！ 敵は強大な上に姑息な手段を用いてくる！

ひー！

敵はきつと全身から粉をふ（適当な発言）、

（遮って）あのだ！

何だ小町！ 小森さんの言葉を遮るんじゃないよー！

ねえ、そもそも、その「敵」ってのは結局何者なの？

（一瞬キョトンとし、）敵は敵だ！ 馬鹿かお前は！

あ、馬鹿って言った！ 馬鹿って言った方が馬鹿なんです！

まあまあまあ！そんなことより、みんなで一緒に……！

互いに目を合わせ、頷ぎ、エリマキトカゲ達は踊り出す。

そして、そのままナナミの周りを廻って退場していく。

#0 胎動

音楽が流れる。(Music by Map of Head [superhuman])※

真つ暗な舞台にはエリマキトカゲ(コンパ、ココイチ、小町、小森さん、小林)。

音の揺らめきに合わせて、瞬くまに、舞台上が照らされる。

エリマキトカゲ達は皆、中心の一点を見つめている。

音が弾んだその瞬間、映し出される舞台。

その中心には、横たわるナナミ。

全員

朝……

#1 日常

ナナミは目を覚まし、伸びなんかしてみても、意識はまだあやふや。なんだかぼーっとしているのは、昨夜の過し方のせいだろうか。

母の呼びかけによつてか、目覚まし時計によつてか、とにかく覚醒する。ちよつとだけ寝坊気味なことに気づく。

ナナミ

目が覚めて、顔を洗って、歯を磨いて制服着て、鏡の前でちよつと考
えて…、スカートもついつい折って。髪型セットして表情作って、

言葉 (母「飯は?」)

ナナミ

ちよつとだけ食べて、学校出かける。

言葉 (母「行ってらっしゃい。」)

ナナミ

「行ってきまーす。」だけはちゃんと言う。

ナナミは家を出発する。

天気は晴れかもしれないし、雨かもしれない。

ナナミと入れ違いに、舞台上には様々な人たちが登場する。

この町は、都会かもしれないし、田舎かもしれない。

学校に到着すると、何人かのクラスメイトは、ナナミより先に教室にい
る。

パー子、ピー子、プー子、ペー子、ポー子(以下「達」、そしてナナミ
は互いに挨拶を交わす。

ポー子は遅刻ぎりぎりだが、表情から推察するに、いつものことのよう
だ。

ナナミ

おはよう！

パー子

おはよう！

ナナミ

おはよう！

ピー子

おはよう！

ナナミ

おはよう！

プー子

おはよう！

ナナミ

おはよう！

ペー子

おはよう！

ナナミ

おはよう！

ポー子

おはよう！

ナナミ

パー子、ピー子、プー子、ペー子、ポー子！おはよう！

P達

おはよう、ナナミ！

ナナミ

おはよう…(客席方向に向かって)あ、おはようございます。

ナナミの表情に、きつと客席は癒やされる「とたろう。

ホームルームのためか、授業のためか、一同は席につく。

ナナミ

これが私の日常で、新鮮さと倦怠感が混ざる8時半、廊下で好きな先
生に会って、朝からテンションちよい上がって、でもやっぱり授業は

退屈で、眠気と格闘する11時。

はい！3xです！

違うよ、係り結びだよ！

あはは！

仲間の声にちよつと笑ってみたりする。チャイムが鳴って移動教室。

もちろんみんなと一緒に移動。

P達と共に移動するナナミだが、一人立ち止まる。

ナナミ

でも忘れ物しちやって一人戻る。そうすると、会っちゃうんだ…、あ
の子に。

曲の麥調と共に、照明はわずかに様子を變える。

#2 エリーとコースケ

ナナミのいる教室に、教科書を借りに来たエリーが入ってくる。

ナナミ

エリー
あれ？次移動なの？

ナナミ
あ、うん。

エリー
めんどくさー。

ナナミ
あはは。フアイトー。

エリー
だるー、保健室行くのかな。

ナナミ
あはは、ねー、だるいよねー。

と、言いながらもエリーは、別の友達の元へ教科書を借りに行く。

エリーを目で追うナナミ。

ナナミ
……やっぱり苦手。

コースケが現れる。

照明はまた僅かに様子を變える。

ナナミ
あ。

コースケ
おー、まだいたの？

ナナミ
あ、うん。

コースケ
やばいやばい、次実験だっけ。

ナナミ
うん。

コースケ
忘れてたー。あ、先行くから。

ナナミ
あ、うん。

コースケ、他のクラスメイトの待つ、実験室へ向かう。

コースケの後ろ姿を目で追うナナミ。

……最初は見てるだけでよかった。でもなんだか今は……それ以上みたい……。

変調と共に一段と変化を増す照明は、ナナミの心と繋がっているみたいだ。

放課後、エリーとコースケは二人で黒板に落書きをしている。

ナナミ、エリーとコースケを見つめる。

でも！

見ちゃった！

放課後の教室。

見ちゃった！

気になる彼……

見ちゃった！

苦手なあの子、見ちゃった私の足、一步後ろへ。扉の陰に隠れた私、二人で描いている黒板の落書き、教室に響く笑い声、廊下まで、……届いてる。

ナナミ

全員

ナナミ

全員

ナナミ

全員

ナナミ

エリーとコースケ、振り返り、舞台後方へ消える。

代わりにナナミ、舞台前方へ。

客席側にある黒板の前になると、チョークを手に取り、絵を描く。

後方、映し出されるエリマキトカゲの絵。

曲の終わり、ナナミはチョークを置き、去る。

#3 飛びたい気持ち

先の曲の終わり際、舞台後方の高台の上、コダマが姿を現す。

この高台とは、屋上なのか、教卓なのか、それとも机や、他の何ものかなのか、劇中で言及されることはない。

照明が変化し、コダマを照らす。

一瞬、コダマとナナミが両方照らされ、交錯する瞬間がある。

コダマ

生まれた時から知っていたんだ。飛びたい気持ち。そして、僕は飛べるといつのこと。…丘の上。目の前に広がる光景が、僕の心をかき立てる。飛びたい気持ちが身体の下からあふれ出す！ここは、空がこんなにも近い…。手を伸ばせば空！見上げれば空！見下ろせば！……ここには……！

エリマキトカゲ達がランニングをしながら現れる。

ジョギングに取り組む姿勢にも、それぞれの特徴が表れている。

コダマは、いそいそと姿を隠す。

小森さん

いち、にー、いちにー！

コダマ達

おーえっ！

小森さん

いち、にー、いちにー！

コダマ達

おーえっ！

小森さん

いち！

コダマ達

おーえっ！

小森さん

にー！

コダマ達

おーえっ！

小森さん

さん！

コダマ達

おーえっ！

小森さん

しー！

コダマ達

おーえっ！

小森さん

いっちにつさんしー、にーにつさんしー止めー！

エリマキトカゲ達、合図に従いランニングをやめる。

小森さん

エリマキ体育大学校校歌！

コダマ達

はいー！

この季節、聞こえてくるのは、やはり校歌である。

コイチ、我こそはと前へ進み出て、指揮を始める。

エリマキトカゲ達、歌い出す。

「エリマキ体育大学校校歌」

♪トカゲの トカゲの トカゲの トカゲの トカゲの トカゲの トカゲの トカゲの 襟――！

(エリエリエリエリエリエリ！) ※1

清くー、

命かけるよ ※2

《ラップパート》 ※3

エリマキトカゲの歩行法！ 四本足から二本足！

おお トカゲッ…… エリマキトカゲッ…… ※

体育大学校 ※5

※1 括弧内は合いの手。コンパが担当。

※2 括弧内は小町担当。

※3 ラップパートは小林が担当。

※4 「おおトカゲ」と「エリマキトカゲ」の言葉尻はそれぞれウイ
スパ。

※5 「校」部分は、突然真面目に。

歌い終わり、「コイチは列に戻る。

小森さん 諸君！この歌の由来を知っているか？

コジエン (ぞわざわと)「え、由来？」「おいお前知ってるか？」「いやー、」

小森さん どうだ！…小町！

小町 えー？私ですかー？分かりません！

小森さん まったくしょうがないなー！小町はー！

小町 すみません！

KFC3 (小町ちゃん…)

小森さん 小林！お前はどつだ！

小林 ……すみません！知りません！

小森さん 全く、これだから若い者は物を知らないと言われてしまっんだ、いい

か！

コジエン はい！

小森さん 我々エリマキトカゲは、かつては四足歩行だったのだ！

コンパ えー！？四足歩行！？

小森さん いい反応だコンパ！

コンパ あざっす！

小森さん コジエン、説明してやれ！

コジエン は！(前に進み出ながら) いいかみんな、よく聞くんた！

コジエン はい！

コジエン 我々エリマキトカゲは、なんと！…本来四足歩行だったのだ！

コンパ えー！？四足歩行！？

コジエン 良い反応だ、コンパ！

小町 いや、さっき

コンパ あざっす！

小町 さっき言った、

小林 かー！流石コジエンさん！博識ー！…

小町 だからさっき言った、

コジエン 何でも知ってる、コジエンです。

小林 かけー！そしてそんなコジエンさんを顎で使える小森さん、かけー！

小森さん 当然のことだ、小林。この私を誰だと思っているんだ。

小林 はい！小森さんです！

小森さん その通りだ小林！私が、小森だ！

小林 かけー！

小森さん あのにつくきヤモリとイモリに対抗出来る唯一のエリマキトカゲ…、

小林 そう！…小森だ！

小林 超かけー！

小森さん そしてその忠実なるしもへ、小林！

小林 はい！忠実なる小林です！

小森さん 小林、お前は幸せな奴だなあ！

小林 はい！小林は幸せな子です！幸子です！

小森さん では、そんな幸せな小林！

小林 はい！

小森さん 今日始めるか！

小林 はい！

コジエン 何が幸せだよ。

小林 え？

コジエン、高台の上にはまっている。

コダマ 誰かに従うのが幸せか!? つながれたままで満足か!? 少なくとも、僕はそんなの嫌だ!

コダマ

小林 あ!

ココイチ コダマ!

小森さん

コダマ 「さ、コダマ! 貴様そんなところで何をしている! 何って、決まってるだろ!

コダマ!

小町 飛ぶんだよ!

小森さん またか貴様! 何度失敗したら理解するんだ! エリマキトカゲに空が

飛べる訳がないだろ!

ココイチ そっだよ! やめなよコダマ!

小町 やめて、コダマ!

コダマ 何言ってるんだよみんな!

小町 え?

コダマ 飛べないわけがないだろ!

小町 ええ?

コダマ ははっ! 飛べる! 知ってる! 僕は知ってる! 翼があることを知っているから! 僕の幸せは空にある! 大地を離れて自由になる! 僕は飛ぶ! この翼で羽ばたいて飛ぶ! 誰よりも高く! 僕は! 今!

飛ぶんだ!.....!

兎玉

ナナミ

ナナミ、立ち止まる。

強がりにさえ聞こえる台詞と共に、コダマは笑顔で飛ぶ。

コダマが飛ぶ瞬間は、不思議と、ゆっくりに見える。

コダマが着地した瞬間、照明は変化し、コダマが中心的に照らされる。

着地したコダマの表情は、見えない。

コダマを見ていた登場人物達、一斉に外側を向き、離れていく。

音楽が流れる。(Music by 相対性理論「バーカント・キッズ」)

あはは! 失敗失敗!...また失敗。やっちゃった! あはは! あははははは...。いつになったら僕は飛べるんだろう。この襟は、いつになったら羽ばたいてくれるんだろう。いつまで、笑われ続けなければならない。いつまで...笑い続けなければならない。

ナナミ、現れる。

コダマ

...だからこそ、彼女はまぶしいんだ。いつでも笑ってる彼女が、輝いて見えるんだ.....。

コダマが襟を倒すと、そこにいるのは兎玉。

兎玉

だからあのとき...

ナナミを見つめる兎玉。

兎玉

...おはよう。

え?

ナナミ

...あれ?

ナナミが振り返ると既に兎玉の姿はなく、舞台にはナナミ一人。

#4 覗き見

もつすぐ夏を迎える季節。
多くの生徒が部活に行き、校舎には日中よりも少しだけ、涼しげな風が通る。

ナナミ

確かに名前を呼ばれたような気がした…。でも…、誰もいない。…校舎まで響く野球部のかけ声。演劇部の発声練習。吹奏楽部のルパン三世…。放課後の教室は不思議。自分が自分じゃないような感覚に包まれて、空間に溶けていく…。私、あの日を思い出す。

時が巻き戻るように、エリーとコースケが現れ、黒板に絵を描く。

エリー

にしてもコースケ、ちょっと絵下手すぎー。

コースケ

は？どこが。

エリー

何これー。

コースケ

は？どっからどっで見てもエリーでしょ。

エリー

は？絶対ないわー。

二人

あはは！

エリー

じゃあたしもコースケ描くー。

コースケ

おー、描け描けー。

ナナミ

見ちゃった私。一步下がる私。扉の陰に隠れる私。聞き耳立てる私。そんな自分にいやらしさを感じる私。確かにそこにいた私。…覗き見た、私。

エリー

……。

コースケ

……。

ナナミ

いや…。見たくない…。見たくないの……。やめて…。私は…
…瞼を閉じた。

瞼が閉じるように溶暗。

#5 不良少女のススメ

暗闇の中、音楽はクラシックに変わる。(Music by Peopl/eam
[Make up people])

「リ」からが照らされる。

ここから

舞台を包むはセンチメンタル。流れる涙。本当に、手に入れたいの
「アイ」but、求めても捕まら「ない」から、とりあえず乗っつけよ
BEEHEEAT…

突如、舞台はクラブのように煌びやかな照明に包まれる。
その中で「リ」から、「一層強く照らされる」。

ここから

へーい！みんな付いて来れてるかい！？

P 達、走り寄ってくる。

P 達

いえーい！

ここから

お客さん！付いて来れてますかー？

P 達

しー。

ここから

ナナミー！付いて来れてるかい！？

近づくエリーとコースケの距離。

ナナミ、照らされる。

ナナミ 私？
ここから あなたのために、素敵な仲間を紹介してやるよ！へい、パー子！

照明が切り替わり、光に照らされるパー子。

ナナミ え、私？
付いて来れてるかい？

パー子 元気ですかッ！元気があれば何でも出来るッ！いくぞーッ！いー

ナナミ え、今明らかに落ち込んでる私に？このノリで？
（無視して）いいかいナナミ！人間、誰もが自分自身の物語の主人公

だ！

全員 6だよ！頭がパー子！

ナナミ え、あ、はい、よくそうやって言われますね

パー子 パー！

ナナミ ナナミー！君の物語の主人公は…、君だー！

パー子、捨て台詞と共に照明から外れる。

ナナミ OKー！それじゃーいってみよー！

ここから あとよろしくナナミ！

ナナミ え？
物語はそう

P達 放課後っ！

「ここから」、退場する。

ここから から始まってこそ

P達 ハイスクール！

「ここから」 授業からの「解放」！それ即ち恋の、

「来訪」！

パー子に代わって光に照らされる「パー子」。

ここから めくる、青春の、「ページ」っ？

P達 恋と、友情、ぶち込んだら

ここから 教科書も先生も

全員 要らない！

全員 お腹がパー子！

ここから 物語が始まります、「ここから」！From…エリマキトカゲ。

ナナミ エリマキトカゲ？

ここから 「の、あなた。

ナナミ …私？

ここから あなたは誰ですか？

ナナミ プー子！

パー子、捨て台詞と共に照明から外れる。

ピー子に代わって光に照らされるピー子。

ピー子

あると思います。…働かない勇氣！

全員

職業。ピー子！

ピー子

プー！

プー子、捨て台詞と共に照明から外れる。

ナナミ

ペー子！

プー子に代わって光に照らされるペー子。

ペー子

本名は平凡の平子なんです。名前の響きが似てるってだけでここに居ます。

全員

謙虚！完璧のペー子！

ペー子

ペー！

ペー子、捨て台詞と共に照明から外れる。

ナナミ

ポー子！

ポー子、ムーンウォークで現れる。

ポー子、マイケル・ジャクソン風に踊る。

ポー子

お待ちせポウ！

全員

マイケル的にポウ子！

ポー子

ポウ！

ポー子、捨て台詞と共に照明から外れる。

P達

ナナミ…！

ポー子に代わって照明に照らされるナナミ。

ナナミ

え？私？え、え、え、…えー？…えーつと、私は…、え、私！？

#6 ナナミ

気づくとそこはいつもの教室。

パー子

ほらー！

ピー子

ちよつとー！

プー子

ちゃんとやってよー！

ペー子

もー！

ポー子

みんなやったんだからー！

パー子

自分だけやんないの無しでしょー！

ナナミ

えーつと、…あはは！

ピー子

もー！

プー子

しょうがないなー！

ペー子

じゃあー私らでやろつか！

ナナミ

え？

ポー子

うん！

P達

そうしょ！

教室でもない、クラブでもない場所へ移る。

ペー子 チヤームポイントは！
P達 笑顔！
プー子 苦手教科は！
P達 数学！
ポー子 お弁当が！
P達 可愛い！
ピー子 何だかとっても
P達 女の子！
ポー子 可愛いナナミの
P達 気になる友達構成は！
ポー子 パー子！
ピー子 ピー子！
プー子 プー子！
ポー子 ポー子！
全員 その他！ 大勢！
ペー子 いつも笑顔で明るい
全員 素敵！
ポー子 いつも笑顔で明るい
全員 元気！
パー子 いつも笑顔で明るい
全員 良い子！
ピー子 いつも笑顔で明るい
全員 大好き！
プー子 いつも笑顔で明るい

全員 ナナミ…！

音楽と照明は、ゆっくりと消えていく。

全員 ナナミ！ ナナミ！ ナナミ！ ナナミ！ ナナミ！ ナナミ！

#7 放課後

ペー子 ナナミ…？ ナナミ？
ナナミ え？

舞台、明るくなる。

教室に戻ってきたP達と、ナナミ。

パー子 ただいまー！
ナナミ あ、うん。おかえり。
ペー子 ごめんね？ 待たせて。
ナナミ ううん、全然。
ペー子 先生が放してくんなくってさー。
ピー子 佐藤さん。
プー子 佐藤さん顔はいいけど話長いからもー。
6人 確かにー。
ポー子 あはは。
ナナミ どうした？ ぼーっとして。
ピー子 あ、ううん。
寝不足？

ナナミ

ううん、大丈夫！

パー子

大丈夫！？…あつ！良いことを教えてあげる！寝不足の時ってね

…、寝るといいんだよ！

プー子

知ってるよッ！

6人

あはは。

プー子

私も、寝不足でお腹が緩くて。

プー子

いつもだよッ！

ポー子

んー！…ポウ！

プー子

もー！お馬鹿！…

ペー子

プーちゃん、「働かない勇氣」って割に、ツッコミ頑張ってるね！

プー子

休みたいー！

6人

あはは。

パー子

あ！ねえ、そんなことよりさ、知ってる！…？

ナナミ

何を？

パー子

んーつとね！…何だっけ！…？

プー子

忘れるなよ！

プー子

じゃあ！そんなことよりさ！…トイレ行かない？

プー子

行ってこいッ！

プー子

うん…。

プー子、内股気味に退場する。

プー子

ホントに行ったよ。

パー子

プー子…！トイレトパーパーはー！再生紙がよく使われてるよ

…！

プー子

(袖から)ありがとー！

ペー子

パーちゃん…、再生紙なんてよく知ってたね。偉いね。

パー子

へへー。「ちり紙交換」も知ってる…！

プー子

もう疲れた。

ナナミ

お疲れ。

プー子

プーには辛いわ。

パー子

えー、もっと元気だそうよー！

ポー子

そうだよー。

ナナミ

二人が元気過ぎるの。

ポー子

えー。

プー子

たっだいまー！

プー子、晴れやかに戻ってくる。

プー子

早…。え、早っ！

プー子

まあ、慣れてるから！

ペー子

なんかやだな。

プー子

匠の技ってやつです！

プー子

そっいうのちめよ？

6人

あはは。

ナナミ

あれ…？

ペー子

どうした？

ナナミ

プー子、襟…。

プー子

襟？

プー子のシャツの襟 立っている。

あー！襟立ててる…！

パー子

(急にかっこつけて)ふふ、どっ？「襟立てスタイル」。

プー子

可愛い…！

プー子

私も、ファッションに目覚めたの。

プー子
ピー子
6人
パー子
ペー子
パー子
ペー子
ナナミ
プー子
ナナミ
ペー子
ナナミ
ナナミ
パー子
4人
パー子
ナナミ
プー子
ナナミ
ペー子
プー子
ナナミ
パー子

トイシで？
うん。
あはは。
でもなんかさー、流行ってるよね、それ！
え、流行ってるのかな。
え、流行ってるんじゃない？ みんなやってるじゃん。
何が良いのか全然分かんない。
私もー。
えー、別によくない？ あ、ナナミもやりなよー！
え、私はいいよ。
最初あれじゃん、あの子。あの子しかやってなかったじゃん。えっと
…、
エリー？
そう、エリーちゃん。エリーちゃんしかやってなかったじゃん。
うん。
エリーの襟立て。………ドッ！
ウケてない！
あはは。
まあでも確かに？ あれってさ、エリーがやってるから可愛いだけだよ
ね。
可愛いかな。
エリーのは可愛いっしょ。…あ、もしかしてエリー嫌いな人？
え？なんぞ？
ああ、あの子結構嫌われてるからねー。
え、そうなんだー。私別にー。
え、ホント？
え？
え、だって…、いいの？

ナナミ
ナナミ
パー子
ナナミ
プー子
ナナミ
ピー子
ナナミ
ペー子
ナナミ
プー子
ペー子
プー子
ナナミ
パー子
ナナミ
ペー子
プー子
ナナミ
ペー子
プー子
ナナミ
ペー子
プー子

え……、
ナナミとパー子に視線が集まる。
だってナナミって、コ、
(遮って) あー！
沈黙。
どした？
ごめん、用事思い出しちゃった！
え？
あ、そうなの？
…ごめん、帰るね！
お、おお。
笑顔を見せて去るナナミと、それを見送る面々。
…あらら。
どうしたんだろ。
んー。
音楽。
P達 シヤツの襟を立てる。
P達 それぞれエリマキトカゲになる。

#8 砦

エリマキトカゲ達 現れる。
エリマキトカゲ達 砦の材料を運ぶ。
ココイチが、小町にぶつかった瞬間、音楽は止まる。

小町 いたっ！（ココイチとぶつかって）
ココイチ あ、ごめん！
小町 もー、ココイチは鈍くさいんだから。
ココイチ えへへ、うん、僕、鈍くさいってよく言われるよ。
小町 だーかーら、その発言がすでに鈍くさいの！
ココイチ え？そんなの？えへへ、「ごめん」
小町 はいはい。あー、もう疲れちゃった。きゆうけーい。
小林 あ、おい小町、さぼってんじやねーよ！
小町 いいでしょー？ ちょっとくらくらい休憩したって。ねえ？
KFC1 もちろんだよ、小町ちゃん！
KFC2 小町ちゃん分まで僕ら頑張るよ！
KFC3 小町ちゃん…。
小町 ほーら。
小林 何がほーらだよ。俺はさぼんって言うてんだよ！ お前らも甘やかすな！
KFC1 そんなこと言われましても、僕ら小町ちゃんファンですから！
KFC2 僕ら小町ちゃんファンクラブ、略してKFCは、小町ちゃんのこと
となら何でも聞きますぞー！
KFC3 小町ちゃん…。
小林 きもい！
小町 みんな、ありがと。
KFC達 小町ちゃん！

小森さん ーっ！
小林 あ、小森さん！
小森さん さぼってるんじゃない！
小林 ちょっと聞いて下さいよ、こいつらが、
小森さん 皆まで言うな小林、私には分かっている。
小林 マジすか！
小森さん 推測するに小町が作業中に勝手に休憩し出して、それを小林が注意したところ、小町ちゃんファンクラブ、略してKFCが小町を擁護してきたんだろう。
小林 流石小森さん！ 完璧だ！
小森さん 更に言えばKFCが気持ち悪すぎて困っていたんだろう。
小林 そんなとこまで！
小森さん もっというとKFCの3人目が「小町ちゃん！」しか言ってなくせに異常な気持ち悪さを発揮していたんだろう！
小林 …神！
小町 ちょっとー、失礼じゃない？
小森さん 馬鹿者！
小町 えー。
小林 いいか！ 敵は必ずやってくる！ そのために我々は砦を築かねばならぬ！ それをさぼるなどけしからん！
小町 そんなこと言ったって、敵なんて来たことないじゃん。
小林 馬鹿者！ そうして我々を油断させておいて、突如やってくるのが敵のやり方だ！
小林 かけー！ 流石小森さん！
小森さん 私の辞書に「油断」という文字はない！
小林 すげー！
ココイチ だが私の辞書にはある！
ココイチ コージエンさん！

小林 すげー!!!
 コイチ かっこいいー!
 小町 ばっかじゃないの? 敵なんてそもそも来ないのよ。
 コイチ え? そうなの!?
 小町 みんなを脅かしてるだけよ。コイチ、だまされちゃダメ。
 コイチ う、うん。
 小林 おい小町、まさか小森さんを馬鹿にするのか!?
 小町 それが?
 小林 それが!? おい! いくら小町だからって許さねえぞ!?
 小町 許さない? えー? 許さない? でも私、…可愛いです!
 小森さん …許そう!
 小林 はい!
 KFC1 流石小町ちゃん!
 KFC2 可愛さ一つで小林氏を黙らせた!
 KFC3 小町ちゃん…。
 コイチ すこーい!
 小町 ふん! 当たり前よ! 私は小町。エリマキトカゲー可愛い小町!
 KFC達 小町ちゃん!
 小町 可愛さこそが私の全て! この可愛さが! 私の証明!
 KFC1.2 うおー! 小町! 小町!
 小町 もっともっと!
 KFC1.2 小町! 小町!
 KFC3 小町ちゃん…。
 小町 ふふん。第一、こんな可愛い私に皆作りの作業なんかさせようとするのが間違いなのよ!
 コイチ なるほど!
 小町 っとなわけでこの休憩は当然の休憩です!
 コイチ 確かに!

小町 ま、そもそも敵なんて来ないんだけどね!
 コイチ 小町ちゃんすこーいや!
 小森さん いや、それとこれとは話が別だ!
 小林 流石小森さん! もっと言っちゃって下さい!
 小森さん 敵は必ずやってくる!
 小町 はー? まだ言つの? じゃあ一体いつやってくるって言つのよ。
 小森さん いつかだ。
 小町 はー?
 小森さん いつか必ずやってくる。
 小町 いつかいつかよ。
 小森さん いつかはいつかだ。10年後かもしれないし、今この瞬間かもしれない。
 小町 はいはい、そうですか。
 コンパ 大変だー!!!
慌てた様子のコンパが現れる。
 コンパ 大変大変大変だー!!
 小森さん どうした、コンパ!
 コンパ 変態です!
 KFC1.2 変態たって!?!
 小町 反応するな!
 KFC3 小町ちゃん…。
 コンパ …変態だ!
 小林 小町ちゃん…。
 コンパ きもい!
 小森さん 間違えた! 大変です! 何者かが…、皆の外に!
 小森さん 何だって!?

小林 敵だ！敵が遂にやってきたんだ！
小町 まさか…、そんなわけない！

強がる小町だが、舞台上には突如、不穏な音の流れ、照明が変化する。それを受けて、エリマキトカゲ達は不安がる。

小森さん みんな！気を付けろ！
小町 そんな…、ホントに敵が？
ココイチ こ、怖いよー！
小林 やべえーやべえよ！
コンパ 敵がくるぞー！
小森さん みんな！身を守れ！

#9 フォアンカン

不穏な音、鳴り止む。
保安官？と馬、現れる。

保安官？ ぱから、ぱから、ぱから、ぱから。
馬 ひひーん。
小森さん ……………何だ！？
保安官？ 者ども静まれー。私はふあんかんだー。
小林 保安官？
保安官？ 屠ってやるー。
コンパ …屠ってやるって台詞初めて聞いたよー！
保安官？ 射殺してやるー。

保安官？が、空砲を放つ。

三兵衛達 …う、うわあー！
ココイチ 保安官が攻めてきたぞー！
保安官？ うたれたいやつはどいつだー。
小町 そんな！ホントに敵なの！？
コンパ 小町ちゃん、ここは俺がおとりになる！だからその隙に逃げて！
小町 でも！
小林 いや、ここは僕が！
コンパ いや僕が！
小町ちゃん！ 小町ちゃん！
コンパ お前ら下がってろ！俺が！
ココイチ いや僕が！
KFC1 僕が、
KFC2 小町ちゃん！
KFC3 よし、じゃあジャンケン、ジャンケンだ。
4人 よーし、
コンパ 最初はグー、ジャンケンポン。(KFC3は声を出さない)
保安官？ よし、おい保安官、俺が相手、
ばーん。
コンパ、倒れる。
三兵衛達 コンパー…！
保安官？ 次に死にたいやつはどいつだー。
コンパ (元気に起きあがる)俺が相手だ！
三兵衛達 コンパー…！

コンパ
 すが達 なんかに生きてたぞー……
 すが達 すげー……
 保安官？ 今日の話はこれくらいにしてらちるー。
 すが達 うそーん……
 保安官？ あいるびーばーつく。ばから。ばから。ばから。ばから。
 馬 ひひーん。

保安官？と馬、去る。

戸惑つエリマキトカゲ達(馬の台詞の後10秒程の間)。

すが達 意味が分からない……

暗転。

#10 放課後の続き

音楽が流れる。(Music by Map of Head / Love Pop Dance Music)
 舞台にはナナミとP達。
 窓辺で何をすするでもなく話をしている。

ペー子 あ、佐藤先生。
 パー子 あ！佐藤さんー！
 6人 (手を振り返してもらう間の後) あはは！
 ポー子 やっぱ佐藤先生イケメン！
 ナナミ そうだね。
 プー子 でも佐藤先生顔良くても話長いから。
 ペー子 分かるー。

ピー子 あれ？なんかこんな話、前したね。
 パー子 あ、なんかしたした！
 ポー子 何かの話してた時だ。
 ペー子 そうそう！
 ピー子 えっと、あれは…、そうだ！
 P達 あれは、襟立ての話だ。

照明、わずかに様子を變える。

プー子 エリーのは可愛いつしょ。…あ、もしかしてエリー嫌いな人？
 ナナミ え？なんで？
 ペー子 ああ、あの子結構嫌われてるからねー。
 ナナミ え、そうなんだー。私別にー。
 パー子 ホント？
 ナナミ え？
 パー子 え、だって…、いいの？
 ナナミ え……、

ナナミに視線が集まる。

パー子 だってナナミって、コースケ君のこと好きじゃん。
 ナナミ え…。
 プー子 え、そうなの？
 ポー子 マジで！？
 ナナミ え……。
 パー子 あ……、ごめん！
 ナナミ ……え、うっん？何が？全然。別に、何にもだよ？
 パー子 ごめん！なんかそこ関係でエリー嫌いかと思ってた！

ナナミ いや…、そんな。

ピー子 エリーちゃんかー。あたしあの子きらい。

ペー子 え、そうなの？ っつか、ピー子誰か嫌いって珍しいね。

ナナミ 確かに。

ペー子 え？ ピー子結構言っつよ？ ねえ？

ピー子 うん。言っつよ。

ペー子 え、そうなの？

ナナミ え、うん、結構辛口。

ピー子 聞いたことないな。

ペー子 ナナミや、ペー子にはあんま言わないかも。

ナナミ へー。

ピー子 え、なんで？

ナナミ そりやだつて、(ナナミとペー子を指して) なんか、良い子らだもん。

ピー子 え？ それ、どついついどつ？

ナナミ ーつとねー、ナナミはさー、なんかいつも笑顔でさー。すごい良い子

ナナミ なんだけど逆に何考えてるのか分かんないんだよね。

ピー子 あー、分かる。

ナナミ え、そんな、何も考えてないよ。

ピー子 うん、そつなんだろつとは思っただけどね。

ナナミ うん。

ピー子 じゃあ、

ナナミ でもね。

ピー子 え。

ナナミ うん。

ピー子 分かる。良い子過ぎても困るんだよね。

ナナミ ナナミから離れるP達。

ピー子 一人残されるナナミ。

教室に差し込む光が、放課後の憂いを教えてくれる。

#11 ドウシテワタシジャダメナンデスカ

ナナミ 放課後の教室は嫌い。苦手なあの子を思い出すから。

エリーが現れる。

エリー あれ？ 今帰り？

ナナミ あ、…ううん。今、みんな待ってると。

エリー そうなんだ。

ナナミ うん。

エリー へー。

ナナミ そつちは？

エリー ん？

ナナミ エリーちゃんは？

エリー ん、私？ 私は…放課後の教室は好き。

ナナミ え？

エリー 彼と過ごす時間だから。

コースケが現れる。

ナナミ あ…。

コースケ 放課後の教室は

ナナミ 嫌い。(同時に)

エリー 好き。(同時に)

コースケ …僕は好き。彼女と過ごす時間だから。
エリー 遅い。

コースケ ごめん。
エリー 何してたの？

コースケ ちよつとね。
エリー ちよつと女の子と？

コースケ してないよ、そんな。
エリー さいてー、

コースケ え、ひどくない？
エリー ねえー、飽きたー。

コースケ 何に。
エリー 教室。

コースケ は？
エリー ねえ、どっか行い。

コースケ いいけど…、いいの？(ナナミを見て)
エリー いいよ、別にしゃべってたわけじゃないし。
コースケ そろ。(ナナミに向かって) じゃあね。

エリー、コースケ、ゆっくりと後ろへ下がる。

ナナミ このままじゃ、…ダメなのかな。

エリー、コースケ、P達、ぐるぐるでナナミの周りを回る。

ポー子 どうしてあの子なんだらう、
ペー子 どうして私じゃないんだらう、
プー子 私じゃダメなの？
ピー子 あの子がいいの？

ポー子 何考えてるか分からないって何？
ナナミ 木霊する。

ポー子 何考えてるか、
ピー子 分かんねー、

ナナミ 分かんないんだよね、
プー子 所詮、ただの言葉なのに。木霊する。
ナナミ 良い子過ぎててもねー、

ナナミ 木霊する。
ポー子 襟立てかわいくない？

ナナミ 木霊する。
ナナミ ナナミもやりなよ？

ナナミ 流行りだ！
ポー子 流行ってるのかな。

ナナミ 流行ってるんじゃない？みんなやってるじゃん。
ポー子 何が良いのか全然分かんない。

ナナミ 私もー。
ポー子 えー、別によくない？

ポー子 最初あれじゃん、あの子。あの子しかやってなかったじゃん。えっと
…、

エリー？

全員 そう、エリーちゃん。

ポー子 鏡の前、一人、私、シャツの襟に手を掛ける。だって、
ナナミ 鏡の前、一人、私、シャツの襟に手を掛ける。だって、
プー子 鏡の前、一人、私、シャツの襟に手を掛ける。だって、
ペー子 鏡の前、一人、私、シャツの襟に手を掛ける。だって、
ポー子 鏡の前、一人、私、シャツの襟に手を掛ける。だって、
ピー子 鏡の前、一人、私、シャツの襟に手を掛ける。だって、
ピー子 鏡の前、一人、私、シャツの襟に手を掛ける。だって！

ポー子 鏡の前、一人、私、シャツの襟に手を掛ける。だって！
 ナナミ 鏡の前、一人、私、シャツの襟に手を掛ける。だって！
 全員 鏡の前、一人、私、シャツの襟に手を掛ける。だって！
 ナナミ 良い子じゃ、彼に選んでもらえないから。

ナナミ、自分のシャツの襟を立てる。
 その瞬間、世界はエリマキトカゲの世界と交差する。
 光が世界を包み込み、音楽は最高潮に至る。
 そして、P達もまた襟を立てる。
 コダマが高台から顔を出す。
 音楽は再び小さくなる。

ナナミ そこにいたのは、滑稽な私。
 ぎん 達は それはまるで、いつか黒板に描いたエリマキトカゲ。あの子に嫉妬してこっそり描いた、エリマキトカゲ。何が良いのか全然分からなかったエリマキトカゲ。
 ナナミ そんな、馬鹿みたいな、襟立てナナミ。
 コダマ おはよう。
 ナナミ …おはよう。
 コダマ …おはよう。
 ナナミ …最悪かも。
 コダマ そっか。
 ナナミ …うん。
 ぎん 達は じゃあ、おやすみ。
 ナナミ うん…。おやすみ…。

ナナミ、倒れ込む。

#12 エリマキ世界へ

前の音と交差して、音楽が流れる。(Music by *Map of Head/superhuman*)
 照らされる、ここから。

ここから
 それは、ちっぽけな彼女の、ちっぽけな、だけど精一杯の反抗。誰もがここを通る！誰もがここから自分を見つけて！涙混じりの恋の舞台！T.O.、エリマキトカゲ。舞台は、ここから！

ここから、退場する。
 照明が変化し、ナナミを中心にエリマキトカゲ達を照らす。

小町 ねえ、誰なんだろう、この子。
 ココイチ 可愛い寝顔。
 小森さん しっ！気を付けろ！敵の奇越したスパイかもしれんぞ！
 小林 ススス、スパイですか！？
 小森さん そうだ、スパイだ！敵は強大な上に姑息な手段を用いてくる！
 小林 ひー！
 小森さん 敵はきつと全身から粉をふ、
 小町 あのだ。
 小林 何だ小町！小森さんの言葉を遮るんじゃねーよ！
 小町 ねえ、そもそも、その「敵」ってのは結局何者なの？
 小森さん …敵は敵だ！馬鹿かお前は！
 小町 あ、馬鹿って言った！馬鹿って言った方が馬鹿なんです！
 コンパ まあまあまあ！そんなことより、みんなと一緒に遊ぼうよ！
 小林 そんな場合じゃねーだろ。

ココイチ 何で？
小森さん 敵が来るからだ。
ココイチ あー、そっか。怖いよねー。
小町 ココイチは相変わらずね。
ココイチ えへへ。
小町 褒めてない。
ココイチ あれ？
コンパ 敵、最近多くない？
ココイチ うん。
小森さん みんな気を付けろよ？
ココイチ はい！
小森さん 敵はきつと全身から粉を、
小町 それはもついい！
ココイチ あはは！
ココイチ う、うーん。
ナナミ 全く、
小森さん で、こいつは一体。
ナナミ (声にならない声)
ココイチ あー動いた！
ナナミ う、うーん。

怯えて少し離れたり、逆に興味を持って近づいたりするエリマキトカゲ達。
ナナミ、身体を少し起す。

ココイチ みんな！ 目覚ましたよ！
小町 ホント？
ナナミ え？
ココイチ 大丈夫？

ナナミ うわ！ 何！？
小町 どうしたの？
ナナミ え、え、え？ エリマキトカゲ！？
小林 は？ 何驚いてんだよ。お前もだろ？
ナナミ え？
小林 自分の姿、見てみるよ。
ナナミ え、ええええ！？

#13 エリマキトカゲ

照明切り替わる。

コンパ 俺はコンパ！ わいわい大好きコンパ！
ナナミ コンパ？
ピーチ 僕はココイチ！ カレー大好きココイチ！
ナナミ ココイチ。
小町 私は小町。エリマキトカゲ一可愛い小町！
ナナミ 小町。
小森さん 私の名前は小森。憎きヤモリとイモリに対抗できる唯一のエリマキトカゲ、そつ…、小森だ！
小林 かー！ 小森さんかっけー！
ナナミ 小森。
小林 そして俺は小林だ。
ナナミ 小林。
ナナミ で、あなたは一体誰？
ナナミ 私？ 私は…。

コダマ 飛ぶ！
ナナミ え？
コダマ 僕は飛ぶ！
小森さん コダマ！
小町 コダマ！ やめて！
コダマ 僕は飛べる！ 翼があることを知っているから！ 僕の幸せは空にある！ 大地を離れて自由になる！ 僕は飛ぶ！ この翼で羽ばたいて飛ぶ！ 誰よりも高く！ 僕は！ 今！ 飛ぶんだー！！
音楽は高調するが、やがて止まる。
音楽が止まると同時に、コダマが着地する音がする。
照明が切り替わり、コダマがエリマキトカゲ達に囲まれている。

小森さん で、結局飛べなかったわけだよな。
コダマ ……はい。
小林 何か言いたいことは？
コダマ いや、えっと。……ないです。
小町 いつも心配させてるってこと分かってる？
コダマ ……あの、……はい。いつもすみません。
ココイチ カレー食べたい。
コダマ あの……はい。すみません。
コンパ ねえ、そんなことよりみんなと一緒にカラオケ行こうよ！
コダマ あの……はい。すみません。
ナナミ あのさ！
ココイチ 何？
ナナミ どういう状況？
小町 見ての通りよ。
ナナミ はあ。

小森さん こいつはいつもこうなんだ。
ナナミ いつも？
小林 飛ぶんだ！ って言ってる、いつも落っこちて。
小森さん 馬鹿な奴だ。エリマキトカゲに、空が飛べるはずなのに。
ナナミ 空を…、
コダマ 飛べる！
ココイチ コダマ、
コダマ 僕は飛べる！
小森さん まだ言うか！
コダマ みんな分かって無いんだ！ ホントは、エリマキトカゲにだって空は飛べるのに！
小森さん コダマ…！
コダマ ……。
コダマ、走り去る。

小森さん ……全く。馬鹿なやつだ。
小林 ほんとつすよね。
コンパ ねえ、そんなことよりみんなと一緒に焼き肉行こうよ！
小町 ちよっと、今そついう雰囲気じゃないでしょ！
ココイチ え、だったら僕カレーの方がいいな！
小町 だからあ！
ナナミ あの！
小森さん ……ああ、見苦しいところをすまない。
ナナミ あの……状況はよく分かんないんだけど。……こっちは？
小林 ああ。
ココイチ 僕らの皆だよ。
ナナミ 皆？

小森さん 私たちは砦を築いて暮らしている。
ミヅ達 砦を築いて(同時に)

ナナミ はあ。

小林 砦を築いて、平和に暮らしている。

ミヅ達 平和に暮らしている。(同時に)

ナナミ へー、

コンパ わに暮らしてた！

ナナミ た？

ミヅ達 うん。

ココイチ 最近、変なのがあるんだよ。

ナナミ 変なの？

小町 ホントにね。意味分かんない。

ナナミ 意味分かんない？

#14 敵達

無頼漢が現れる。

無頼漢 うおらー！ 無頼漢じゃー！…！

ナナミ え、な、何！？

無頼漢 力を頼りに、全てを破壊してやるー！

コンパ な、何だあいつー！

コージエンが現れる。

コージエン 説明しよう。

小林 コージエンさん！

コージエン あれは、無頼漢だ！

ミヅ達 無頼漢！？

コージエン 乱暴をはたらく「ろつぎ 所謂」ならず者「のことだね！

無頼漢 ひゃっはー！ 壊してやるー！

ココイチ こ、こわいよー！

小林 さすがコージエンさん！ 物知りー！

コージエン 何でも知ってる、コージエンです。

無頼漢 うるせー！(殴る)

コージエン ぎゃー！

ミヅ達 こ、コージエンさんー！

コージエン 喧嘩は知らない、コージエンです。

ミヅ達 コージエンさんー！

コージエン、倒れる。

無頼漢 次の相手はどいつだ！

ミヅ達 ひー！

コンパ くっそーっ！ あっち行けよー！

無頼漢 …また来てやるからなー！

無頼漢、退場する。

ココイチ あっち行っただよ…。

ナナミ なんだったの！？

コージエン あいてて。

小森さん あれが敵だ。

ナナミ 敵？

小森さん
敵がやってきてるんだ！
ココイチ
あ、また来た！

面接官が現れる。

面接官
どうぞ着席してください。
コンパ
今度はなんだ！？
面接官
面接を始めます。
ココイチ
…うわあ！面接官だ！
面接官
落としてやるー！
小林
ひー！
コンパ
俺が相手だ！
面接官
それでは、弊社の志望理由を教えてください。
コンパ
……何言ってるか分からーん！

コンパ、倒れる。

面接官
コンパー！
面接官
落とされたいやつはどいつだー！
面接官
ひー！
面接官
では、そのあなた。
小林
俺？
面接官
最近、気になっているニュースを教えてください。
小林
え？…なんか、オリンピックとか？すごい気になってます。
面接官
ふっ。(失笑)
小林
えー？
面接官
面接を終わります。

面接官、退場する。

小林
ええっ…？ええー…？
ココイチ
最近、こんなんばかりなんだ。
コージエン
いつ敵がやってくるか不安で、夜も眠れないんだ。
小町
連中、たいしたことないんだけど。
コンパ
そうなんだよね。(起き上がってきて)
小森さん
コンパ、大丈夫だったか？
コンパ
うん、大丈夫。
小林
何なんだろうな、あいつら。
ココイチ
何なんだろうな、この状況。

朝刊、現れる。

小町
うわ！また出た！
朝刊
新聞読めー！
ココイチ
うわー！またよく分かんないやつが来た！
朝刊
新聞読めー！特に朝刊読めー！
小森さん
朝刊だー！
コンパ
くっそー！見てろ！テレビ欄と四コマ漫画だけ読んでやる！
朝刊
活字ビーム。
コンパ
ぎゃー！
コンパ
コンパー…！
コージエン
くそー、コンパ、お前の仇は僕が討つ！
小林
コージエンさん！
コージエン
僕は朝刊読んでるからなー！
夕刊、現れる。

夕刊 じゃあ夕刊はどうだい？
小町 うわ！増えた！
夕刊 夕刊までちゃんと読んでるかい？
コージエン ゆ、夕刊だと？
夕刊 タイムリーな話題ヒーム。
コージエン ぎゃー！知らなかったー！
マズ、達 コージエンさん！
夕刊 夕刊も読めー！
マズ、達 うわあ！
夕刊 薄くて読みやすいぞー！
ココイチ 確かに！
朝刊 分厚くてお得だぞー！
ココイチ 確かに！
朝刊 朝刊読めー！
夕刊 夕刊読めー！
朝・夕刊 新、聞、読めー！
小林 ……くっそー！
朝刊 新聞くらい読まないといかんぞ。
小林 親父みたいなこと言うなよー。
夕刊 新聞読んで国語力をつけろ。
小林 先生みたいなこと言うなよー。
朝刊 新聞読めー。
夕刊 読まないと、ちゃんとした大人になれないぞー。
小林 知るかよー！
朝刊 これから毎日きてやる。
夕刊 さらばだ。

朝刊、夕刊、去る。
コンパ、コージエン、起き上がる。

コンパ ……最悪だ。
小林 毎日来るってよ。
小町 しかも2人よ！？今までそんなことなかったのに！
ココイチ 何なんだろう、これ。
コンパ 何なんだろう、あいつら。
小町 全員、なんとかカンなんだよね。
コージエン 確かに。
小林 何か、よく分かんねー。
コンパ くっそー。
ココイチ もうやだよー！

保安官？が現れる。
前面には、「ほ」の文字。

保安官？ ばからばからばから。
小町 いや、馬いまいよ？
保安官？ ばからばからばから。
小町 いや、馬いまいよ？
保安官？ ……(背中を見せながら) あーいむ、ばーつく！
マズ、達 ……もう意味が分からん！

保安官？の背中には、「ほ」の文字。
一気に暗くなる。

#15 放課後の真相

音楽が流れる。(Music by 初音ミク/MEIKO/IA/ナナミ/ナナミ)
照明が点灯する。

ピー子 よく分からない、
全員 ストリー。

パー子 これこそがきっと、
全員 私、
の物語なんだ。

ポー子 私、
全員 私、
の物語の主人公は、
全員 私。

プー子 本当によく分からないのは、
全員 「自分自身」
ナナミ かもしれない。

全員 自分が自分じゃないような感覚に包まれて、空間に溶けていく、
ナナミ 私、あの日を思い出す。

舞台前方が照らされる。

時が巻き戻るように、エリーとコースケが現れ、前方の黒板に絵を描く。

パー子 見ちゃった私、

ピー子 一步下がる私、

プー子 扉の陰に隠れる私、

ペー子 聞き耳立てる私、

ポー子 そんな自分に、

ポ&パー子 いやらしさを感じる私

ピ&ペー子 確かにそこにいた私、

プー子 覗き見た、

全員 私。

エリー ……。

コースケ ……。

近づくエリーとコースケの唇。

ナナミ いや…。見たくない…。見たくないの…。やめて…!

振り返るエリーとコースケ。

ナナミ あ……。

エリー あれ？ ナナミちゃ、

エリーの言葉を待たずして、ナナミ、逃げ出す。

エリー あ。

コースケ ……しまったな。

エリー ……あの子、コースケのこと好きだよな。

コースケ ……は？いや、そんなことないでしょ。あんまりやべったことないよ？

エリー いやいや…まあいいけど。

エリーとコースケ、退場する。

音楽 小さくなり、消える。

舞台、暗くなり、暗い中で台詞のみ。

ココイチ あれ？何か暗くない？

小町
え、雰囲気か？それとも舞台上が？
コンパ
どっちもどっちも！

ココイチ
あ、あ、あ、見て！みんな！また保安官が来たよー！
小林
なんだ、保安官か。保安官ならたいしたことねーよ！
小森さん
馬鹿者！油断するな！
でも小森さん、そつは言っちゃって…、

保安官？が去って行く。
不気味な、いやな空気を残して。

小林
……あれ？

ココイチ
いなくなった。

小森さん
……。

小林
は！大方小森さんに恐れをなしたんだろ！

ココイチ
え、そつなの？へー！小森さんすー！

小森さん
…油断するなよ。

小林
え…？

舞台が照らされると、「コダマ」。

コダマ
…僕は飛べるんだ。でも、いつになったら飛べるんだろう。いつまで
笑われ続けなければいいんだろう。いつまで、笑い続けなければいいんだろう。

ナナミが走ってやってくる。

ナナミ
…あ。

コダマ
どつしたの？

ナナミ
…。

コダマ
そんな悲しそうな顔して。
ナナミ
……うん、何でも！

コダマ
笑顔が素敵だね。
ナナミ
え？
僕、その笑顔好きだよ。
…ありがとう。えつと…、

コダマ
名前、なんて言うの？
コダマ。

ナナミ
よろしく、コダマ。

ナナミ
あれ？名前…。言っちゃったけ？

コダマ
うん、知ってたよ。
そっか…。ねえ、コダマは、いつもああして飛んでるの？

コダマ
そつだよ？

ナナミ
どうして？

コダマ
ん？飛ぶ理由？

ナナミ
うん。
僕は飛べるから飛ぶんだ。

コダマ
え、でも、

コダマ
僕には翼がある。

ナナミ
…、
飛ばない方が変でしょ？

コダマ
でも、それは。
それは？

ナナミ
翼じゃ無くて、襟だよ。

コダマ
知ってるよ？

ナナミ
え？

コダマ それくらい知ってるよ。

ナナミ え、じゃあ、

コダマ でも、だからって関係ないんだ。

ナナミ ……。

コダマ これが襟だからって、僕が飛ばない理由にはならない。

ナナミ ……すごいなあ。

コダマ 何が？

ナナミ そんな風に言い切れるところ。

コダマ ……はは！ そんなの簡単だよ。信じればいいんだから。

ナナミ 信じるって、何を？

コダマ 自分に決まってるじゃん。

ナナミ ……だって、それが出来ないから。

コダマ 何で？

ナナミ え、なんでって…、自分がそう思っても、みんながどう思うかとか、

コダマ いろいろ考えちゃうし。

ナナミ みんなと違うとダメなの？

コダマ ……嫌われたくないから。

ナナミ なんで？

コダマ 何で？ え、なんでって…。

コダマ だって、誰からも好かれるなんて無理でしょ？

ナナミ それは…、そうなんだけど。

コダマ そんなの気にしてたら、いつまで経っても飛べないよ！

笑顔のコダマが去り、照明が切り替わる。

不気味な音楽が流れる。(Music by Mop of Head「The World」)

保安官？が立っている。

ココイチ あ、保安官だ。

小町 なんか、いつもと雰囲気が違う…。

コンパ ほんとだ。

小林 おい、何か言えよ。

保安官？ ……。

保安官？が、壊れたマリオネットのように、不気味な動きをする。

小林 な、なんだ？

無頼漢、現れる。

ココイチ あ、あっちにも。

小森さん 無頼漢だ。

面接官、現れる。

コンパ こっちにも。

小森さん 面接官だ。

朝刊、現れる。

小森さん 朝刊。

小林 どうなってるんだ？

#16 闘い

夕刊、現れる。

小森さん

夕刊も。

敵達、壊れたマリオネットのように不気味に動き、エリマキトカゲ達を威嚇していく。

小林

何なんだ、これ。

小森さん

敵が本性を現したんだ。

小町

これが、敵の正体なの？

ココイチ

何だか…気味が悪いよ…。

コンパ

おい、俺が相手だ！

小町

危ないよ、コンパ！

保安官？

屠つてやる！

保安官？が、銃を撃つ。

コジエン

うわあああ…！

保安官？は、無言で銃を撃ち続ける。

コジエン

保安官が…！

保安官？

不安に逃げ惑え！クズ共！

コジエン

うわー…！

無頼漢、襲つ。

無頼漢

壊してやる！

コジエン

うわー…！

無頼漢

死にたいやつはどいつだ…！

コジエン

うわー…！

無頼漢

力の無いやつは死ね…！

ココイチ

いやだ…！

無頼漢

自分の無力さを恨め…！

コンパ

うわー…！

面接官、襲つ。

面接官

落としてやる…！

小森さん

やめろ…！

面接官

あなたたちは社会にとって要りません！

小町

そんなこと言わないでよ…！

面接官

不採用不採用不採用…！

小町

いや…！

面接官

優秀な人はいくらでもいるんです…！

小林

くそ…！

朝刊、夕刊、襲つ。

朝刊

毎朝来てやる…！

夕刊

夕方来てやる…！

コジエン

来るな…！

朝刊

新聞も読まないやつはろくな大人にならないぞ…！

夕刊

え！？今日起きたことも知らないの？

コジエン

うわー…！

コンパ
朝・夕刊
小林
いやだー！
新聞読め！ 毎日読め！ 継続は力だ！
ちくしょー！

敵達に、エリマキトカゲ達は追い詰められていく。

保安官？

無頼漢

面接官

朝・夕刊

毎日来てやる！

もういやだー！

あつはつは！これぞ！阿鼻叫喚ー！

うわー！

もうやめてよ！

小町さん
小町
何なの！何がしたいの！何でこんなことするの！私たちが！何し
たって言うのよ！

何もしてないよ？

え…。

何もしてねえよ。

何もしてませんね。

何もしてないね。

うん、何もしてない。

じゃあ、なんで…。

あー、そりゃだめだよ。何かしなきゃ。

エリー

エリー、現れる。

エリー
勘違いしちゃう人、よくいるんだよね。
ナナミ
え？…エリー？
エリー
嫌われたくないからって何もしない人が、一番嫌われるのに。
ナナミ
何でいるの！？
エリー
え、何でいるのってひどくない？
ナナミ
え、これってなんか、…う、描写っていうか暗示っていうか？精神世
界的なそういうんじゃないの！？
エリー
は？何言ってるの？

音楽は一時停止し、照明も教室の明かりへと戻る。

いや、そもそもエリーの言う通り、精神世界など存在しないのかもしれない。

世界はエリマキトカゲ世界(だと思っていた世界)から、現実の世界へとシフトする。

あれ！？

ナナミちゃんって何か、不思議だよ。

え？あれ？

変わってるよねー。

…そんなことないよ。

いつもにこにこしてるし。

…そっ？

私だったら疲れるわー。

…そっ？

そんな、笑顔作ってさ。

そんな、作ってるわけじゃないよ。

ねえ、コースケ、そう思わない？

コースケ、現れる。

コースケ うーん。

ナナミ あ…。

コースケ 確かにね。なんか、いっつも笑ってる子って、ホントに笑ってるのか
分かんないよね。

エリー 分かるー。

ナナミ ……それ、よく言われる。

コースケ あんま良い子ってのもなー。

エリー ねー。でも、かわいそっだよねー。「良い子なのに」。

コースケ ああー、確かにー。

エリーとコースケが退場し、音楽が再開する。

ナナミ ……うるさいな。…みんなに笑顔で接して何が悪いの？何考えてるか分
かんないって何なの？別に笑顔作ってるわけじゃないし、いっだって

心から笑ってるし、これが私の普通の顔なんだし、それに、それで誰
か困るわけじゃないし。

児玉 ホント？

ナナミ ……え？

児玉 ただ嫌われたくないだけじゃないの？

ナナミ ……それは。

パー子、箱を持って走ってくる。

パー子 え？ナナミ？んーっと、超いいやつだよね！

ピー子、箱を持って走ってくる。

ピー子 え？ナナミ？そっだなー、いっつも笑顔！

プー子、箱を持って走ってくる。

プー子 えー？ナナミ？なんか、自然な感じで合わせてる？みたいな？

ペー子、箱を持って走ってくる。

ペー子 え？ナナミ？私は好きだよ？私は。

ポー子、箱を持って走ってくる。

ポー子 え？ナナミ？まあ…、良い、人？

P達、箱をナナミの周りに置く。

ナナミ 何なの……。何が言いたいの…！

P達 え？別にー？

P達、一斉に走り去る。

ナナミ ……むかつく。

ナナミ、自分の殻に閉じ籠もる。

P達、再び箱を持って現れる。

パー子 あれ？

ピー子 今日ナナミ休み？
プー子 ほんだ。
ペー子 どうしたんだろ。

P 達、会話をしながら箱を積み上げていく。

ポー子 今日もナナミ休み？

プー子 ほんだ。

ペー子 大丈夫かな。

級友達、箱を持って現れる。

P 達、級友達、箱を積み上げながら会話していく。

ピー子 あ、高円寺さん。

高円寺 ナナミさんって、まだ来ないの？

パー子 ねー。

高円寺 ちよつと長いよね。

プー子 うん。

高円寺 誰かメールしてみた？

ピー子 あ。…した？

パー子 私は。(首を横に振りながら)

プー子 あー、私してみよっか？

ピー子 え、誰もしてなかったの？

高円寺 うそっ、誰も!?

ペー子 あ、私この前したよ？

ポー子 おお、

高円寺 あーよかった。

パー子 流石。ペー子。

プー子 で、どうだった？

ペー子 あ、うん、メールでは大丈夫だった。

ポー子 全然大丈夫じゃないじゃん。

ペー子 ホントだね。

ピー子 大丈夫かな。

パー子 ねー。

ペー子 心配だよねー。

P 達と級友達、箱を積み重ね終える。(〓皆の完成)

完成した皆の周りを、ぐるぐる回る。

照明はその色を変え、舞台上の人物達は一斉に襟を立てる。

舞台は、再びエリマキトカゲの世界へ。

大量の保安官?・無頼漢・面接官・朝刊・夕刊が、不気味に押し寄せる。

敵達、一歩ずつ、ゆっくり近づいてくる。

小林 な、何だよ、あれ。

保安官達 屠ってやる。

ココイチ う、うわあ!!

小林 やめろ!来るな!

無頼漢達 壊してやる。

小森さん みんな!皆を築け!

面接官達 落としてやる。

小町 嫌!嫌!

ココイチ 誰か助けて!

朝・夕刊達 ずっと来てやる。

コンパ 嫌だー!

子達 もうやめてー!!

照明が切り替わり、コタマが照らされる。
コタマ、襟を伏せ、児玉になる。
児玉、ナナミの髻の一部を取り除く。
そこにあるのはかすかな希望の光。
ナナミ、髻に埋もれたまま、児玉との会話が始まる。

児玉 あ…、目、覚めた？
ナナミ あれ？
児玉 もう放課後だよ？
ナナミ あれ？ 教室？
児玉 どうかしたの？
ナナミ ……ううん、何でも。
児玉 夢でも見た？
ナナミ ……かも。
児玉 そっか。
ナナミ 児玉さん？
児玉 何？
ナナミ あ、ううん。…何か、こっやって二人で話すのって、初めてだよ？
児玉 え？ 違つよ？
ナナミ え？
児玉 忘れちゃった？
ナナミ え？ えつと…、
児玉 おはよう。
ナナミ ……おはよう。
児玉 気分はどう？
ナナミ ……コタマ？
児玉 何？
ナナミ あ…、いや、…児玉さんじゃなくて、えつと…、

敵達

児玉 一緒だよ。
ナナミ ……え？
児玉 みんな一緒だよ。
ナナミ みんな一緒…？
児玉 ナナミさんって、いつも笑顔だからいいよね。
ナナミ ……ありがとう。
児玉 私も見習わなきゃ。
ナナミ あはは。…でも、私なんて見習ってもよくないよ。
何で？
え、だって、…。
ナナミさんはそれでいいんじゃないかな。
でも、私、
自信がない？
…うん。
不安？
うん、
だったら、みんなみたいに作る？髻。
……。
まだ気持ちは動かないかな。
……。
じゃあ、見ててくれるだけでいいから。
…え？

児玉 襟を立て、コタマになる。
舞台はエリマキ世界へ。
覚悟を決めた表情のコタマは
屠つてやる。

ココイチ
無頼漢達

助けて！

破壊してやる！

小町
コダマ

いやッ……！

……待てよ！

コンパ
保安官達

コダマ……

屠ってやる。

黙れ！

コダマ、高台に駆け上がる。

音楽が流れる。(Music by ケン・ケニー / インク・アメリカ「空から見ていた」)

いた！

コダマ

うおー……！

小町

……コダマ？

うおー……！

コダマ、飛ぶ。

着地する。

コダマ、高台に駆け上がる。

コダマ

くそ……！

コダマ

待てよ！

小森さん

コダマ！

コダマ
僕が飛ぶ……！

ココイチ
無頼漢達

もういいよコダマ！
壊してやる。

まだまだ！

小町

コダマ？

コダマ
僕が飛んで見せる……！

コダマ、高台へ駆け上がる。

コダマ
何言ってるんだよコダマ！

コダマ

何度だって飛ぶ……！

小森さん

今はそんな場合じゃないだろ……！

コダマ
飛ばなきゃ何も変わらない……！何も変わらないんだよ……！

コダマ、飛ぶ。

着地する。

コダマ
うおー……！

コダマ

……くそ……！……！

コダマ、飛ぶ。

小町

もうやめてコダマ……！身体が……！

着地する。

小森さん

やめろコダマ……！エリマキトカゲに空は飛べない……！

コダマ

くそ……！

ナニが照らされる。

ナナミ やめて…コダマ…。だって…、もう遅いよ…。
ここから まだ遅くないよ。
ナナミ え？

ここからが現れる。

ここから まだ君は何だって出来る！

ナナミ …先生？

ここから 怯える必要はない！

ナナミ 佐藤先生ですか？

ここから 佐藤先生ではない！

ナナミ え、じゃあ、あなたは一体。

ここから ここからだ！

ナナミ …ここから。

ここから これは誰もが通る道！

全員 ここは誰もが来る世界！

ここから 君の世界は君のものだ！未来は変えられる！

ナナミ でも、

ここから 将来に怯えるな！今に怯えるな！立ち向かえ！全ては…ここから

だー！

ここから、不安な気持ちもコンプレックスも、全てをなげ払って去る。

ナナミ 全ては、ここから…。

照明がナナミとコダマだけを照らす。

コダマ

ナナミ

コダマ

ナナミ

コダマ

ナナミ

コダマ

だって、誰からも好かれるなんて無理でしょ？

それは…、そうなんだけど。

あ、でも、それでもないか。

え？

みんなに好かれる人はいるな。

え、どんな人？

そりゃ…、いつだって笑顔な人ですよ。

照明 戻る。

コダマ

何度だって飛んでやる！どれだけ失敗したって飛んでやる！エリマキトカゲに空は飛べない？そんなの誰が決めたんだ！世界の法則？運命？何言ってるんだ！飛べないエリマキトカゲは、ただのエリマキトカゲだ！

高台へ駆け上げるコダマ。

コダマ

飛べないわけがないだろ！ははっ！飛べる！知ってる！僕は知ってる！翼があることを知っているから！僕の幸せは空にある！大地を離れて自由になる！僕は飛ぶ！この翼で羽ばたいて飛ぶ！誰よりも高く！僕は！今！飛んだ！…！

風がコダマを後押しする。

コダマ、飛翔する。

世界は生まれ変わる。

小森さん

飛んだ…。

小町

コダマ…。

ナナミ

飛んだ…。

ナナミを囲んでいた臂が少しずつ崩れる。

ナナミ

あの日の言葉が木霊する。

パー子

襟立てかわいくない？

ナナミ

これじゃない、

パー子

流行りだ！

ナナミ

これじゃない、

プー子

ナナミもやりなよ？

ナナミ

これじゃない、

ピー子

何考えてるか分かんないんだよね

ナナミ

これじゃない、

プー子

良い子過ぎてよねー、

ナナミ

これじゃない、

コダマ

笑顔が素敵だね。

ナナミ

木霊する、

コダマ

僕、その笑顔好きだよ、

ナナミ

木霊する、

ペー子

いつも笑顔で可愛い、

ナナミ

木霊する、

ポー子

いつも笑顔で明るい、

ナナミ

木霊する、

ピー子

いつも笑顔で素敵！

ナナミ

木霊する！

全員

いつも笑顔で大好き！

ナナミ

木霊する！

臂、完全に崩壊する。

パー子

飛び立った、

全員

紙飛行機

ナナミ

15点、

パー子

答案用紙が変わる、

全員

馬鹿でいい。

ピー子

誰かが飛んだ、

全員

棒高跳び。

ナナミ

私いつも、

ピー子

窓から見てた、

全員

彼は彼。

プー子

仲良かったあの子は、

全員

今度留学

ナナミ

するって。

プー子

私もやんなきゃ。

全員

I can fly!

ペー子

体育館の窓のとこ、

全員

巣を作ってたツバメの子

ナナミ

いつの間にかいなくなってた、

ペー子

飛べない子は、

全員

もつけない！

ポー子

飛び交う笑い声、

全員

中心はあの子！

ナナミ

でも！

ポー子

一歩踏み出せば、

全員

憧れは自分へ！だから！

ナナミ

もう大丈夫！もう大丈夫！

全員　もう大丈夫！もう大丈夫！
ナナミ　私、もう大丈夫。

敵達、いつの間にかもう消えている。

#17　もう大丈夫

音楽、流れる。(Music by *Map of Head* [superhuman])
音の揺らめきに合わせて、瞬くように、舞台上が照らされる。
エリマキトカゲ達は、P達へと戻る。
音が弾けたその瞬間、映し出される舞台。
そこは、教室。

プー子　ねえ、次、宿題提出…、だよね？パー子、やった？
パー子　あはは、やってない、
プー子　あてになんねー、
パー子　ばー！

ポー子　やべー、忘れてたー、
ペー子　家でやっとかないからー、
プー子　ナナミ、見せてー！
ナナミ　だめ、自分でやんなきゃ。
プー子　えー、
ナナミ　力付かないでしょ？
プー子　ぷー。

ピー子　ねえ、一緒にトイレ行こー。
ナナミ　行つてらっしゃい！
ピー子　ぴー。

ペー子　ナナミ。私、そっちの方が好きだよ。
ナナミ　え？
ペー子　ぺー。

パー子　あー佐藤さん！
ポー子　と見せかけて、んー、ポウ！
ナナミ　あはは！
プー子　意味分かん。意味分かん。
児玉　あはは、
ナナミ　あ、児玉さん、おはよう！
児玉　おはよう！

そして、いつもの朝の風景に戻る。
閉幕。

※Map of Head 「superhuman」は、曲の変調ごとにシーンを切り替えるので、台詞とリズムが合致するようになっていきます。